

番号	上 かみ の句	下 しも の句	作者 さくしや
31	あきのそらゆうぐれどきのくものいろ 秋の空夕暮れ時の雲の色	ももとむらさきあわいさかいめ 桃と紫淡い境目	そらいろぱれっと
32	このきもちつたえたいんだあなたにね この気持ち伝えたいんだ貴方にね	こいのきもちねこいのやくそく 恋の気持ちはね恋の約束	あきぷりでえーす!
33	ふゆがきたさむしこのころふゆじたく 冬が来た寒しこの頃冬支度	はるをまちわびしがまんのころかな 春を待ちわびし我慢のころかな	今日も生きてる人
34	ゆきげしやうひとがゆきかうげれんで 雪化粧人が行き交うゲレンデで	かれーのにおひつられちやいけぬ カレーの匂ひ釣られちやいけぬ	ナヨン推し
35	もみじのはかぜにさそわれおちていく 紅葉の葉風に誘われ落ちていく	ぜんぶなくなるとふゆのはじまり 全部無くなると冬の始まり	広島のコキンちゃん
36	いのこりでまどのむこうをながめれば 居残りで窓の向こうを眺めれば	くらくふりゆくあわいゆきかな 暗く降りゆく淡い雪かな	もちもち
37	ふゆのあさみにしみるほどのさむいかぜ 冬の朝身に染みるほどの寒い風	いえのぬくもりのありがたみしる 家の温もりのありがたみ知る	盤古
38	つきあかりおおきくともるひろいそら 月明かり大きく灯る広い空	しずかなふゆにきぼうをさして 静かな冬に希望を指して	M
39	おしやうがつこたつぬくぬくあったかい お正月こたつぬくぬくあったかい	てれびがあるとめっちゃさいこう テレビがあるとめっちゃ最高	太智
40	そうちやうにゆきがちらちらつもりゆる 早朝に雪がちらちら積もりゆる	せみなくなつのおもかげどこへ 蝉鳴く夏の面影どこへ	ありわらのるるひら